

通学による対面授業を基本としますが、オンライン授業も併用します

中京大学は、通学による対面授業を重んじています。

しかし、現在は新型コロナウイルス感染症影響下（コロナ禍）ですので、学内における感染防止対策を講ずる必要があります。コロナ禍以前の状態に戻すことはできません。

具体的には、①通学者数をコロナ禍以前の 50～60%近くまで減らし、キャンパス内に滞留する学生の人数が過多とならないようにする、②履修者数が多い科目については、教室内が密にならないようにする等の措置が必要ですので、本学は、対面授業を重んじながらも、オンライン授業を併用します。

オンライン授業を実施する主な科目は、履修者が多い大規模授業科目です。また、感染すると重症化するリスクの高い教員（高齢や既往症がある）の担当科目や遠方に居住する教員の担当科目等です。また、発話や会話が必要となるコミュニケーションやディスカッションを重視する科目も、飛沫感染防止のために Zoom などの会議システムを利用した授業を行う場合があります。

これに対して、特に 1 年生を対象とした学部固有科目については、大学での学びに順応できるよう、対面授業を基本とすることにしています。

2020 年度運用の「感染拡大状況レベル」は設定しないことになりました。2020 年度秋学期（後期）は、本学が独自に「感染拡大状況のレベル」を 5 段階に設定し、各レベルに応じた方法で授業を実施していましたが、2021 年度は、レベルの設定をしないことになりました。新型コロナウイルス感染症に関する理解や対策については、様々な知見が蓄積されてはきているものの、変異株蔓延のおそれや、ワクチン接種の効果など、今後の想定がしづらい不透明な状況が生じているからです。このため、レベル設定による画一的な対応はとらず、全国的・地域的な感染状況や、国、地方自治体からの要請、本学の感染防止対策、授業の実施状況など、様々な指標を総合的に判断し、柔軟に対応していくことといたします。

第 1 週目はすべての科目、オンライン授業を実施します

開講後の第 1 週目の授業（春学期：4/7～13、秋学期：9/20～24）は、履修者数が確定しませんので、対面授業実施科目の教室内が密になるおそれがあります。このため、全科目オンライン授業を実施します。

なお、履修者数が確定する第 2 週目以降の対面授業は、座席の間隔をあけることが可能な教室を設定して実施します。

感染拡大状況が深刻化した場合は、方針を変更する場合があります

2021 年度中に、感染拡大が深刻化した場合は、以下の例のように変更する場合があります。

【例】・当初予定が対面授業であった科目について、オンライン授業に変更しても教育効果が下がらないことが確認できる科目についてはオンライン授業に変更する。

・実験、実習、実技を伴う科目については、可能な限り感染防止対策を講じて対面授業を実施するが、緊急事態宣言が発出され、大学への休校要請がなされるなど、感染拡大がさらに深刻化した場合には、全科目オンライン授業へと変更する。

オンライン授業は、教育効果を高める方法で実施します

オンライン授業の実施方法として、WEB 会議システム等を用いたリアルタイム型と本学の教育支援システム MaNaBo を使用して教材等を配信するオンデマンド型の 2 種類があります。特に、オンデマンド型で授業を実施する場合には、単に教材資料のみを配信するのではなく、「説明のための動画や音声をつける」「小テストなどを実施して学生の学習進行状況や理解度を確認する」「システムの機能を用いて学生同士のディスカッションを行う」など、教育効果を高める工夫をします。

なお、前述のとおり、授業第 1 週目は、全ての授業をオンラインで実施します。学生の皆様には PC や WEB 環境などの受講準備をお願いします。

可能な範囲で対面授業に出席できない学生への配慮をします

健康面の不安やご高齢家族の方への伝染の懸念、学生自身の濃厚接触者としての特定など、様々な事情により対面授業に参加できない場合を想定し、オンライン授業を組み込んだ履修計画を立てることも可能とします。また、選択せざるを得ない科目が対面授業である場合は、授業の配信や別途課題の提示など、可能な範囲で配慮に努めます。

安心して対面授業を受講できるようにキャンパス内感染防止対策を徹底します

名古屋・豊田の両キャンパスとも、引き続き適切な方法による感染防止対策を徹底して行います。詳細は[こちら](#)を確認してください。